



JILISシンポジウムパネルディスカッション
なぜ炎上・デマの
拡散をしてしまうのか

 OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

三浦麻子 @asarin

大阪大学大学院人間科学研究科

自己紹介

• 専門は社会心理学

- 社会心理学とは、「心」なるものの表象としての「行動」は、個人の内的な特性要因(性格や能力など)と、その個人を取り巻く環境要因(状況や生活環境など)とが組み合わさって表出するものと考えられる研究領域

• 研究関心

- コミュニケーションを通じて新しい「何か」が生まれるメカニズムを実証的に検討しており、インターネット上の人間行動に関する研究を多くしている

Osaka University
Research Profile
2019

A Collection of Twelve Impactful Articles
from Osaka University

11
Humanities and Social Science



Asako
Miura

Social Psychology,
Graduate School of Human
Sciences

In an Internet-driven world, social media has become the go-to source of all kinds of information. This is especially relevant in crisis-like situations, when warnings and risk-related information are actively circulated on social media. But currently, there is no way of determining the accuracy of the information. This has occasionally resulted in the spread of misinformation, with some readers often bearing the brunt. In a study published in *Japanese Psychological Research*, scientists at Osaka University, including Prof Asako Miura, found a pattern through which information spreads on social media—which could help prevent the spread of fake news. Prof Miura says, “Dissemination of information through social media is often associated with false rumors. In order to prevent this, we wanted to unravel the

how these false rumors spread.”

The scientists focused on Twitter, a popular site where users can disseminate or share information through the “retweet” feature. Conventional models of information diffusion fail to adequately explain the exact transmission route on social media, as they do not take into account individual user characteristics. Therefore, to study these characteristics, the scientists first selected 10 highly retweeted (more than 50 times) risk-related tweets. Based on Slovic’s well-known definition of risk perception, a cognitive model used to assess how people perceive certain risks, they assessed whether users perceived these risks as “dreadful” (related to large-scale events with potentially dire consequences) or “unknown” (when the impact of the event is unknown). They then analyzed

retweeted particular tweets—specifically the number of followers, followees, and mutual connections.

They found that users with fewer connections tend to spread information arbitrarily, possibly owing to a lack of experience or awareness. But, users with a high number of mutual connections were more emotionally driven—they were more likely to spread dreadful information, possibly intending to share their reactions with the public. Prof Miura explains, “Our study showed the existence of an information diffusion mechanism on social media that cannot be explained by conventional theoretical models. We showed that risk perception has a significant impact on the “retweetability” of tweets.”

By identifying the user network characteristics



Humanities and Social Science

Twitter上でのリスク情報の拡散メカニズム(どのようなリスク情報が拡散されやすく、どのような人が拡散させやすいか)の解明を試みた研究が、**Osaka University Research Profile 2019**に選出

なぜ人間は“愚かな”行為をしてしまうのか?

3

- それは, 人間は基本的に(自分たちが考えているよりも)愚かな存在であるから.
- たいていの場合, 状況に応じて(自他にとって)適切な振る舞いをしたいと考えてはいるが, そうできない様々な「障害」を(意識できない直感的なレベルで)抱えている.
- それを私は **にんげんだもの** と表現している.

なぜ人間は“愚かな”行為をしてしまうのか？

- 人間とはそういう存在なのだ, と言うことを認め
た上で, ようやく, そういう存在であつてもなるべ
く適切な振る舞いができるよう, 意識的に考える
ことができるようになる.
- それで“愚かな”行為を全面的に防ぐことは困難
だが, まずその自覚が第一歩である, と心理学者
としては訴えたい.

なぜ人間はオンライン上で “より愚かな”行為をしてしまうのか?

- オンラインは未だ、その愚かさをドライブする要因のひとつ **脱抑制 disinhibition** を強化・増幅する装置である。それは、多層な匿名性(物理的に対面していない, 相手が自分を知らない, 本名を名乗っていない, 等)が達成されていることによる。
- しかも、そういう愚かな人々が雲霞のように押し寄せる状況を経験したことがある人はほとんどいないので、それがどれほど苦痛かと訴えられたとしても、想像できない。さらに言えば、想像したとしても、おそらく過小評価となる。

心理学的な説明

- 基本的に、人間は自己評価を維持しようとする動機づけが高く(自己評価維持モデル), またそれが実際より高め(平均以上効果)の方向に恣意的に歪める(ためにいろいろな非合理的な解釈をする).
- このことは、炎上加担やクソリプなどの脱抑制的行為と、それを受け止める側が(数がたとえ少なくても)脅威を強く感じやすいことの両方に関わっていると考えられる.
 - もちろん、行為実行者はごく少数(ごく少数だからこそ、それが「非/反社会的」とみなされるともいえる)

心理学的な説明

- 自己と他者に関わる**認知的バイアス**
 - 「自分がしたことが他者に及ぼす効果」と「他者に自分がされたことの自分が及ぼす効果」の推定は、たとえ「したこと」「されたこと」が同じでも非対称で、前者は後者より過小推定される
 - それ以外にも様々な人間の認知には非対称性がある。同じ世界を同じように見ているわけではない、みんなちよっとずつ違う色眼鏡をかけている
- デマやフェイクニュースの拡散(あるいは、拡散に対する強い批判)がなくなる理由も認知的バイアス(確証バイアス)で説明可能
 - みんな「自分が信じたいもの」を信じている

人間の“愚かな”行為は増えたのか？

- そもそも人間はこういうことをやらかしがちだ、と考えているので、人間が変わった(変えられた)せいで増えたとは思わない。
- ただし、SNSの登場により、誰の目にもさらされる場所でも行われるようになり、必然的に目立つようになったのは確実。
- つまり、記録ベースとしては増えているだろうと思うし、有事に際してはさらに増えるだろう。
 - ネット上の特定の行為が「炎上」とラベリングされた時点から、「炎上」案件は増える。昔の人に「承認欲求」がなかったわけではない。

人間の“愚かな”行為はどうやったらなくせるか？

- 「にんげんだもの」である以上、自覚を促すことに劇的な効果を見込めるわけではない。
- 当然、一人一人がバイアスを自覚しなるべく熟慮した行動をすべきだが、あくまでも「べき論」域を出ない。
- SNS等のシステム側がある程度コントロールすべきだし、その際は「仕掛け」や「ナッジ」も有効ではあろう。
- ただ、対面社会と似たようなレベルで**脱抑制を抑制**させるためには、過度なcyberbullyingに対する(親告によらない形での)法的な規制も必要ではないかと思う。
 - 「これをやったら捕まる(からやめよう)」がという抑止力がまだ機能していない。それができないなら現状を「これ以上ひどくなりませんように」と許容するしかないのでは。